指導上の参考事項　　小ぎくの開花調節

野菜花き部

1．背景とねらい

近年小ぎくの栽培が増加しているが、長期出荷するために現在は開花期の異なる品種を組み合わせることで対応している。しかし、小ぎくの開花期が不安定であるため、多数の品種を用いる必要があり、育苗や栽培管理の煩雑さの原因となっている。そこで、少ない品種で長期出荷に対応するために、簡易な方法による開花調節技術を８月咲きの有望品種について検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

2．技術の内容

1）開花調節技術

（1）８月上旬までに開花する品種の場合、秋の株分け定植により10日～20日程度開花期が前進する。草丈も高くなる。

（2）８月上旬開花品種で、通常５月上旬に定植するのを２週間程度遅らせることにより、５～10日程度開花期が遅れる。ただし草丈は低くなる。

（3）摘心後または間引き後、エスレルを茎葉散布することにより、開花期は5～7日程度遅れ、草丈も高くなる。エスレルは300ppmの濃度で、株当たり2～3ml、10a 当たり20～30 lを散布する。この場合の薬剤費は2000円前後である。

（4）以上の技術を組み合わせることにより、同一品種で約１カ月の採花が可能となる。

作型、処理組合せ例（北上付近）

品　種	定植期	処理	採花期	出荷期間
さなえ	秋 秋 5月初旬 5月初旬	無 エスレル 無 エスレル	7月下旬 7下～8初旬 8月上旬 8月中旬	7月下旬 ～ 8月中旬
由　美	秋 秋 5月初旬 5月中旬	無 エスレル 無 無	8月上旬 8月中旬 8月下旬 8下～9初旬	8月上旬 ～ 9月初旬
秋　水	5月初旬 5月初旬	無 エスレル	8月中～下旬 8月下旬	8月中旬～ 8月下旬

品種	定植期	処理	採花期	出荷期間
もみじ狩	秋 秋 5月初旬 5月中旬	無 エスレル 無 無	8月上旬 8月中旬 8月下旬 8下～9初旬	8月上旬 ～ 9月初旬
入　舟	秋 5月初旬 5月初旬	無 無 エスレル	7月中～下旬 7月下旬 8月上～中旬	7月中旬 ～ 8月中旬
美　紗	秋 5月初旬 5月中旬 5月下旬	無 無 無 無	8月上旬 8月中旬 8月下旬 8下～9初旬	8月上旬 ～ 9月初旬

2）　適応地域　　県内全域

3．指導上の留意事項

（1）処理の効果は品種間差が大きく、気象、栽培条件によっても差が生じる。エスレル処理では、生育初期が高温である場合や定植が遅い場合は効果が低い。

（2）品質は、エスレル処理については問題ないが、秋植えの場合分枝が長くなり、ボリューム過剰となるなど草姿を乱しやすいので施肥量を少なめとする。特に「秋水」は分枝が長くなりやすいので秋植えには向かない。

（3）母株（冬至芽）は低温に当たったものを無加温ハウスに入れて管理し、3月頃から保温を開始し、摘心して挿し穂を得るが、高温で管理した場合はエスレル処理の効果が低下するので、低めの温度(20℃以下)で管理する。また、秋植えの場合は9月中に作業を終え、活着率を高める。

4．当該事項にかかる試験研究課題名　　小ぎくの開花調節

5．参考文献　切花栽培の新技術　キク上下　　誠文堂新光社　1987

6．試験成績の概要　　省略